

2024年7月24日

急性膵炎患者における膵^{がん}を検出するための Radiomics および機械学習を用いた
アプローチ (MAGIC-SCAN 研究)

Radiomic and Machine Learning Approaches to Detect Pancreatic Cancer in
Patients Presenting with Acute Pancreatitis (MAGIC-SCAN STUDY)

◆研究の目的と概要◆

当院では、ハンガリー膵臓研究グループ (The Hungarian Pancreas Study Group) との共同研究により、急性膵炎患者の CT 画像に関して調べています。

本研究では、急性膵炎患者の CT 画像を Radiomics (画像データを統合し、網羅的に解析する手法) および機械学習法を用いて解析することで、背景に存在する膵がんの早期診断に役立てることができるかを明らかにすることを目的とし、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2014年1月～2023年12月の間に急性膵炎の診断で当院に入院し、急性膵炎発症後6か月以上たってから膵癌と診断された方。

◆研究に使用される情報◆

研究対象者の一般情報：性別、生年月日

膵がんに関する情報：がんの局在、診断日、臨床病期

急性膵炎に関する情報：急性膵炎エピソードの回数、急性膵炎の成因および重症度、慢性膵炎や自己免疫性膵炎・糖尿病の診断の有無、入院日および退院日

CT 検査に関する情報：CT 撮影日、CT スキャン機器の種類、画像スライス厚、造影剤使用の有無と撮像タイミング

急性膵炎発症から膵癌診断までに撮影された腹部 CT 画像 (DICOM 形式のデータとして利用)

◆情報の研究利用開始日◆

2024年9月1日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録 (カルテ) 等からの情報を利用します。臨床情報については、個人を特定できないように情報を加工した上で、研究主体 (センメルヴェイス大学 (ハンガリー)) に送付します。CT 画像についても、個人を特定できる情報を削除した画像データを DICOM

形式で保存し、研究主体により提供された専用のプラットフォームにアップロードします。アップロードされた画像は、ニューヨーク大学で開発された検証済みの画像解析パイプライン（FireVoxel）を使用して解析する予定です。

◆研究代表者・情報提供先◆

研究代表者：Brigitta Teutsch 医師（所属：センメルヴェイス大学、Centre for Translational Medicine）

情報の提供を行う機関の長：Béla Merkely 教授（センメルヴェイス大学、学長）

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

消化器内科 研究責任者 上野 真行

E-mail： kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する診療情報・画像データ等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存情報を用いなければ研究の実施が困難である等の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明